

〔一〕次の文章を読んで、後の問に答えよ。

マルクスによれば、コミュニズムとは、「否定の否定」であった。一度目の否定は、資本によるコモンスの解体である。それをさらに否定するコミュニズムは、コモンスを再建し、「ラディカルな潤沢さ」を回復することを目指す。資本主義は、自らのために「人工的希少性」を生み出す。だからこそ、潤沢さこそが資本主義の天敵なのである。

そして、潤沢さを回復するための方法が、「コモンス」の再建である。そう、資本主義を乗り越えて、「ラディカルな潤沢さ」を二一世紀に実現するのは、「コモンス」なのだ。

ここでは、「コモンス」を潤沢さとの関係で具体的に説明した方が、イメージしやすいかもしれない。繰り返せば、「コモンス」のポイントは、人々が生産手段を自律的・水平的に共同管理するという点である。

例えば、電力は「コモンス」であるべきである。なぜなら、現代人は電気なしには生きていくことができないからだ。水と同じように、電力は「人権」として保障されなくてはならないのであり、市場に任せてしまうわけにはいかない。市場は、貨幣を持たない人に、電気の利用権を与えないからである。

ただ、だからといって、国有化すればいいわけではない。なぜ国有ではダメかといえば、電力を国有にしたところで、原子力発電のような閉鎖的技術が導入されてしまつては、安全性にも問題が残るからである。また、火力発電も、しばしば貧困層やマイノリティが住む地域へと押しつけられ、大気汚染が近隣住民の健康をオビヤかしてきた。

それに対して、「コモンス」は、電力の管理を市民が取り戻すことを目指す。市民が参加しやすく、持続可能なエネルギーの管理方法を生み出す実践が「コモンス」なのである。その一例が市民電力やエネルギー協同組合による再生可能エネルギーの普及である。これを「民営化」をもじつて、市民の手による「市民」営化」と呼ぼう。

ここでのポイントは、原子力や火力発電とは異なり、太陽光や風力は排他的所有と馴染まないということだ。太陽光や風力は、ラディカルな潤沢さをもつ。実際、無限で、ムシヨウなのだ。それゆえ、石油やウランとは異なり、どこでも、誰でも、比較的レンカに発電を開始・管理することができる。ゴルトツの分類に従えば、再生可能エネルギーは、「開放的技術」

なのである。

しかし、この事実は資本にとっては致命的である。太陽光のようにエネルギー源が分散化していて、独占ができない場合には、希少性を作り出せない。その結果、貨幣化することが著しく困難になる。

こうして、資本主義にとつてのジレンマが生じる。希少性を作り出すことの困難さは、儲けが出ないことを意味するからだ。そのことが、市場経済のもとでは、再生可能エネルギーへの企業参加が遅々として進まないことの原因になってしまうのである。ここには、「資本の希少性」と「コモンの潤沢さ」の対立がある。

だからこそ、再生可能エネルギーの普及には、「〈市民〉営化」が不可欠なのである。分散型の特性を逆手にとつて、営利目的ではない、小規模の民主的な管理に適した電力ネットワークを構築するチャンスなのである。

実際、そのような「〈市民〉営化」の試みは、これまでもデンマークやドイツで進められてきた。そして、近年では、日本でも非営利型の市民電力が広がりを見せている。福島原発事故後に、市民が市議会に働きかけ、私募債やグリーン債で資金を集め、耕作放棄地に太陽光パネルを設置するなど、地産地消型の発電を行う事例が増えているのである。

エネルギーが地産地消になっていけば、電気代として支払われるお金は地元で落ちる。営利目的ではないため、収益は地域コミュニティの活性化のために使うことができる。そうすれば、市民は、自分たちの生活を改善してくれる「〈コモン〉」により関心をもち、より積極的に参加するようになる。

このような循環が生まれれば、地域の環境・経済・社会は相乗効果によって活性化していく。これはまさに、「〈コモン〉」による持続可能な経済への移行にほかならない。

〈コモン〉は、電力や水だけではない。生産手段そのものも〈コモン〉にしていく必要がある。資本家や株主なしに、労働者たちが共同出資して、生産手段を共同所有し、共同管理する組織が、「ワーカーズ・コープ（労働者協同組合）」である。

ワーカーズ・コープは、労働のジチ・自律に向けた一歩として重要な役割を果たす。組合員がみんなで出資し、経営し、労働を営む。どのような仕事を行い、どのような方針で実施するかを、労働者たちが話し合いを通じて主体的に決めていく。

それが可能なのは、社長や株主の「私有」ではなく、かといって「国営企業」でもなく、労働者たち自身による「社会的所有」だからである。

その伝統は長い。マルクス自身もワーカーズ・コープの試みを高く評価し、「協同組合運動が、階級対立に基礎を置く現在の社会を改造する諸力のひとつであることを認め」ていた。ワーカーズ・コープの運動は、欠乏を生み出す現在の資本主義を、「自由で平等な生産者の連合社会」によって置き換えることが可能であることを示した、とマルクスは言うのである。

そして、ワーカーズ・コープを「可能な」コミュニズム」とさえ呼んだのだ。コープ、すなわち協同組合はドイツ語でいえば、「Genossenschaft」であるが、マルクスは、「genossenschaftlich」という形容詞を「アソシエーション」と同義で使っていたほどである。

なぜか。それは、本源的蓄積が困り込みによって、生産者を生産手段から切り離し、希少性を生み出したことと関係している。協同組合は、労働者たちが連帯することで、生産手段を自分たちの手に取り戻し、「ラディカルな潤沢さ」を再構築するからにほかならない。

興味深いことに、近年、英国労働党などによって、ワーカーズ・コープや社会的所有の再評価が進んでいる。もちろん、それは、衰退する福祉国家に対するオルタナティブとして、である。

二〇世紀の福祉国家は、富の再分配を目指したモデルであり、生産関係そのものには手をつけなかった。つまり、企業が上げた利潤を所得税や法人税という形で、社会全体に還元したのである。

その裏では、労働組合は、生産力上昇のために資本による「包摂」を受け入れていった。資本に協力することで、再分配のためのパイを増やそうとしたのだ。その代償として、労働者たちの自律性は弱まっていった。

資本による包摂を受け入れた労働組合とは対照的に、ワーカーズ・コープは生産関係そのものを変更することを目指す。労働者たちが、労働の現場に民主主義を持ち込むことで、競争を抑制し、開発、教育や配置換えについての意思決定を自分たちで行う。事業を継続するための利益獲得を目指しはするものの、市場での短期的な利潤最大化や投機活動に投資が左右されることはない。

力点は、「自分らしく働くこと」だ。ワーカーズ・コープでは、職業訓練と事業運営を通じて、地域社会へ還元していく「社会連帯経済」の促進を目指す。労働を通じて、地域の長期的な繁栄に重きを置いた投資を計画するのである。これは、生産領域そのものを(コモン)にすることで、経済を民主化する試みにほかならない。

これは夢物語のように聞こえるだろうか。いや、必ずしも夢ではない。ワーカーズ・コープは、世界中に広がっている。スペインのモンドragon協同組合は歴史も古く、有名で、七万人以上の労働者が組合員として参加している。日本でも、介護、保育、林業、農業、清掃などの分野でワーカーズ・コープの活動は四〇年近く続いている。その規模は一五〇〇〇人以上だ。

資本主義のガジョウであるアメリカにおいてすらも、ワーカーズ・コープの発展が目覚ましい。オハイオ州クリーブランドのエバーグリーン協同組合、ニューヨーク州のバッファロー協同組合、ミシシッピ州のコーポレートジャクソンなど、住宅、エネルギー、食料、清掃などの問題に取り組む市民の活動がコミュニティを再生しようとしている。

利潤優先の経済システムでは、清掃や調理や給仕などのエッセンシャル・ワークは、低賃金だ。そのせいで、こうした仕事はしばしば有色人種の女性に押しつけられ、コミュニティの分断を生み、最終的には、サービスの質の低下にもつながっている。悪循環である。

だからこそ、協同組合は、エッセンシャル・ワークを自律的で、魅力的な仕事に変えることを目指す。さらに、賃金と雇用を改善し、人種・階級・ジェンダーによる分断を乗り越えてコミュニティ再生につなげていこうとするのである。

もちろん、マルクスが指摘していたように、ワーカーズ・コープも一歩外に出れば、資本主義市場での競争に晒さらされてしまう。そのせいで、コストカットや効率化が優先されたり、儲け重視になってしまいうこともある。それゆえ、最終的にはシステム全体を変えなくてはならない。けれども、貧困、差別、不平等を作り出す資本主義に抗して「誰も取り残されない」という観点から、協同組合が社会全体を変えていくひとつの基盤になることができるのは間違いない。

「〈市民〉営化」による電力ネットワークや協同組合は、ほんの一例にすぎない。教育や医療、インターネット、シェアリング・エコノミーなど「ラディカルな潤沢さ」を取り戻す可能性はいたるところに存在している。例えば、ウーバーを公

有化して、プラットフォームを〈コモン〉にすればいい。新型コロナウイルスのワクチンや治療薬も、世界全体で〈コモン〉にすべきだろう。

〈コモン〉を通じて人々は、市場にも、国家にも依存しない形で、社会における生産活動の水平的共同管理を広げていくことができる。その結果、これまで貨幣によって利用機会が制限されていた希少な財やサービスを、潤沢なものに転化<sup>て</sup>していく。要するに、〈コモン〉が目指すのは、人工的希少性の領域を減らし、消費主義・物質主義から決別した「ラディカルな潤沢さ」を増やすことなのである。

〈コモン〉の管理においては、必ずしも国家に依存しなくていいというのがポイントだ。水は地方自治体が管理できるし、電力や農地は、市民が管理できる。シェアリング・エコノミーはアプリの利用者たちが共同管理する。IT技術を駆使した「協同」プラットフォームを作るのだ。

「ラディカルな潤沢さ」が回復されるほど、商品化された領域が減っていく。そのため、GDPは減少していくだろう。脱成長だ。

だが、そのことは、人々の生活が貧しくなることを意味しない。むしろ、現物給付の領域が増え、貨幣に依存しない領域が拡大することで、人々は労働への恒常的プレッシャーから徐々に解放されていく。その分だけ、人々は、より大きな自由時間を手に入れることができる。

安定した生活を獲得することで、相互扶助への余裕が生まれ、消費主義的ではない活動への余地が生まれるはずだ。スポーツをしたり、ハイキングや園芸などで自然に触れたりする機会を増やすことができる。ギターを弾いたり、絵を描いたり、読書する余裕も生まれる。自ら厨房<sup>ちゅうぼう</sup>に立ち、家族や友人と食事をしながら、会話を楽しむこともできるようになるだろう。ボランティア活動や政治活動をする余裕も生まれる。消費する化石燃料エネルギーは減るが、コミュニティの社会的・文化的エネルギーは増大していく。

毎朝満員電車で詰め込まれ、コンビニの弁当やカップ麺をパソコンの前で食べながら、連日長時間働く生活に比べれば、はるかに豊かな人生だ。そのストレスを、オンライン・ショッピングや高濃度のアルコール飲料で解消しなくてもいい。自

炊や運動の時間が取れるようになれば、健康状態も大幅に改善するに違いない。

私たちは経済成長からの恩恵を求めて、一生懸命に働きすぎた。一生懸命働くのは、資本にとって非常に都合がいい。だが、希少性を本質にする資本主義の枠内で、豊かになることを目指しても、全員が豊かになることは不可能である。

だから、そんなシステムはやめてしまおう。そして脱成長で置き換えよう。その方法が「ラディカルな潤沢さ」を実現する脱成長コミュニティズムである。そうすれば、人々の生活は経済成長に依存しなくても、より安定して豊かになる。

1%の超富裕層と九九%の私たちとの富の偏在を是正し、人工的希少性をなくしていくことで、社会は、これまでよりもずっと少ない労働時間で成立する。しかも、大多数の人々の生活の質は上昇する。さらに、無駄な労働が減ることで、最終的には、地球環境をも救うのだ。

（斎藤幸平「欠乏の資本主義、潤沢なコミュニティズム」より）

問一 「貧困」の反対を意味する語句として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。  1

- 1 栄華
- 2 裕福
- 3 蓄財
- 4 豊満
- 5 豊潤
- 6 豪遊

問二 「開放的技術」とあるが、ここでの「開放的」に最も近い語句を次の中から一つ選べ。  2

- 1 公共的
- 2 民衆的
- 3 自立的
- 4 社会的
- 5 協同的
- 6 普遍的

問三 「ジレンマ」の言い換えとして、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。  3

- 1 逆説
- 2 苦しみ
- 3 二律背反
- 4 自己矛盾
- 5 板ばさみ
- 6 当てこすり

問四 「オルタナティブ」の言い換えとして、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。  4

- 1 支援策      2 未来像      3 代替案      4 特効薬      5 救済策      6 新機軸

問五

「包撰」の意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

5

- 1 支配すること      2 妥協すること      3 つかさざること  
4 取り込むこと      5 まとめること      6 分かり合うこと

問六

「転化」とあるが、「転」を用いた語句として適当でないものを次の中から一つ選べ。

6

- 1 円転滑脱      2 心機一転      3 生々流転      4 有為転変      5 急転直下      6 意気衝転

問七

「恒常」の意味として、適当でないものを次の中から一つ選べ。

7

- 1 一定      2 不変      3 永続      4 定常      5 恒久      6 通常

問八

「オビヤかし」「ムシヨウ」「レンカ」「ジチ」「ガジヨウ」の漢字と、同じ漢字を含むものを次の中から一つ選べ。

8  
12

- オ 1 キヨウキの押収      2 キヨウキの沙汰      3 企業のキヨウサン

- 4 キヨウイ的な記録      5 ウイルスのキヨウイ      6 キヨウサンの水溶液

- カ 1 ホシヨウ書      2 休業ホシヨウ      3 社会ホシヨウ

- 4 一国のシュシヨウ      5 シュシヨウな心がけ      6 チームのシュシヨウ

- キ 1 避難クンレン      2 レンガを詠む      3 セイレンな人柄

- 4 鉄をセイレンする      5 精神をタンレンする      6 ラーメン屋のジョウレン

- コ 1 コジ来歴      2 ラチ被害      3 温故知シン

問九

「ラディカルな潤沢さ」と対立するものとして筆者が使用している文中のことばを次の中から一つ選べ。

13

- |          |            |                |
|----------|------------|----------------|
| 4 ジン予知   | 5 精妙コウ升    | 6 メイジ時代        |
| 1 ガが強い   | 2 ガシユに富む   | 3 ガテンがいく       |
| 4 ガベイに帰す | 5 ガリヨウ点睛   | 6 シガにもかけない     |
| 1 脱成長    | 2 相互扶助     | 3 消費主義         |
| 4 現物給付   | 5 ボランティア活動 | 6 社会的・文化的エネルギー |

問十

「〈コモン〉の再建」とあるが、それを可能にする手段や方法について、筆者の考えと異なるものを、次の中から一つ選べ。

14

- 1 電力の管理を市民の手に取り戻し、再生可能エネルギーを普及させる。
- 2 マルクスの言うコミュニズムの否定によって、資源の再分配を実現する。
- 3 ウーバーを公有化して、プラットフォームを資本に依存しないかたちにする。
- 4 ワーカーズ・コープによって、労働者たちが自ら労働の現場に民主主義を持ち込む。
- 5 労働者がより大きな自由時間を手に入れるために、貨幣に依存しない領域を拡大させる。
- 6 「〈市民〉営化」によって、人々が〈コモン〉に関心をもち、積極的に参加する循環を生み出す。

問十一

「生産手段を自律的・水平的に共同管理する」とあるが、その説明として最も適当と思われるものを次の中から

一つ選べ。

15

問十二

- 1 労働者たちが企業の上げた利潤を社会に公平に還元する。
- 2 労働者たちが貧困層やマイノリティを救済するために尽力する。
- 3 労働者たちが話し合いを通じて生産物の再分配を主体的に決める。
- 4 労働者たちが計画的に生産を行ないながら排他的所有を有効化する。
- 5 労働者たちが資源の希少性を最大限に利用しながら共同の富を生み出す。
- 6 労働者たちが市場や国家に依存することなく生産活動を主体的・民主的に行う。

本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。

16

16

の欄に、二カ所マークすること

- 1 ワーカーズ・コープは、競争を抑制し生産手段を共同管理することで地域社会の繁栄を目指す。
- 2 ワーカーズ・コープは、エッセンシャル・ワークの希少性を高め、魅力的な仕事へと変えている。
- 3 ワーカーズ・コープは、労働者が分散型の技術を活用して地産地消型経済を実現する試みである。
- 4 閉鎖的技術は、希少性をつくり出すことで、排他的所有と結びつく。
- 5 閉鎖的技術は、「市民」営化により、地域経済を持続可能にする。
- 6 閉鎖的技術は、国有化されることで平等な電力ネットワークを実現する。

「二」次の文章を読んで、後の問に答えよ。

前号でも触れた映画監督の河瀬直美さんと、早速この号で対談することができた。ぼくは河瀬さんの映画の背後にある世界観は、今の時代の建築を考える上でとても大切なものだと感じているので、ぜひ多くの建築関係者にこの対談を読んでもらいたい。それは人と人、人とも、人と場所、人と歴史、人と時間、人と光が、様々なかたちでつながり影響を与えあいながら共存する場である。全てが肯定的に許容され、それぞれのかげがえのない一瞬一瞬を生きていく。そのような場全体、世界全体を描き出すのが河瀬さんの映画だ。もしそんな場所を現実の世界につくることができれば、夢のような建築に違いない。

ア

この Better Co-Being の考え方は、人と人との関係だけにとどまらず、イこれからの建築のあり方をも指し示していないだろうか？ 建築を構想し、また体験する時、その建築なり空間なりを単体で構想したり体験したりというのは、ウあまり意味がないであろう。どんなに面白い空間をつくったとしても、それが周囲の状況や歴史や気候風土、利用する人々などの多様な他者と豊かに関係づけられていないのなら、テーマパークがそうであるような「興味深いつくり物」で終わってしまうのではないだろうか(エ)テーマパークそのものの世界を真に徹底することで、デイズニーのような突き抜けることも事実であるが)。建築の真の力というのは、建物それ自体に留まらない空間的、時間的な広がりを含み、周辺環境や歴史や気候風土などのあらゆる状況を統合した総体を未来へと向かって提示することではないだろうか。それはある意味では、当たり前前のことである。しかしそれは、当たり前前すぎるゆえに、しつかり省みられないまま放置されてきたのではないだろうか。「周辺環境を考慮して」とか「土地の記憶を」といったありきたりな言葉を安易に使うことで、それ以上の思考の深さに至らないままにされてきたのではないだろうか。

河瀬さんと宮田さんと話していると、彼らが建築の専門家ではないゆえに、オ自分が当たり前前と思ってそのままにして

いた建築の本質の意味を気づかせてくれるのだ。

二五年来の友人である建築家の平田晃久さんと久しぶりに建築の話をした。信頼できる友人と忌憚(きたん)のない議論ができるのは素晴らしいことだ。その中で「モダニズム」についても議論になった。それはとても懐かしい響きだった。ぼくたちが出会った二五年前の一九九〇年代の半ば、モダニズムをいかに超えることができるか、という青臭いと言われてしまうような議論を、真剣に交わっていたのだった。当時はせんだいメディアテークや横浜港大さん橋国際客船ターミナルのコンペ案が発表され、何か新しい動きが起こりつつあるのを皆が感じていた。時代の脈動のようなものが確かにあった。ポストモダンの表層的な新しさが収束してしばらく経っていたこともあり、今度こそ、大きな変革が起こるに違いない、自分たちがその最前線を切り開くのだ、という若々しい意気込みがあった。

そもそもぼく自身が、建築を学び始めてすぐにその面白さにのめり込んでいったのは、大学で最初に教わったモダニズムの「栄光の革命」に魅了されたからだだった。コルビュジエやミースが二〇世紀初頭に、まるでアインシュタインが物理学を書き換えたのと同じ鮮やかさでもって建築の歴史を書き換えた。若かりしぼくは、そのように近代建築を理解し、誤解し、その鮮やかな革命を自分も再び起こすことができるのではないかという空想に夢中になった。それが正しかったのか、間違っていたのか、という議論にはあまり意味がないだろう。その時の情熱が確かにぼくを支え前へと押し進めていった。九〇年代に平田さんと議論を戦わしていた時にも、そのパッションは生き続け、それどころか志を同じくするものを得てより高揚(たか)すらしていた。その時考え議論してきたことは、確実に今のぼくたちの根底を支えているはずだ。

その一方で、少しずつだが自分自身のプロジェクトが増え、また何よりモダニズムに限らず世界の様々な素晴らしい建築を訪れる機会が増えてくると、ぼくの中のモダニズムの位置づけも変化してきた。近代建築とはかつてぼくが誤解していたような「ケ」などではなく、むしろこの「多様な素晴らしい世界」の中で、人間がその様々な気候風土や歴史文化の蓄積、新しい技術やライフスタイルの変遷などを真摯に受け止めながら人間のための場所を模索していくという数千年来受け継がれてきた建築という営みの歴史の誠実な一ページなのだと理解するようになってきた。それはひとつの時間軸で進むリアな歴史とは違い、無数の方角へ無数の一歩が試みられる豊かな継承の営みなのだ。

とはいえ、このコロナの状況の只中であって、大きな意味での近代の枠組みが、つまり建築における近代というよりも、人間の思考の枠組みとしての大きな近代というものが、すでにだいぶ前から崩れかかっていたはずだが、いよいよ本格的に問い直される気配を感じるのも事実である。

近代とは、つまり西洋近代とは、すごく大雑把にいうと、分析し整理整頓することでこの複雑な世界を理解することができ、整理したものを論理的に組み上げると、世界を構築できる、という意識のことではないだろうか。〔一〕近代建築における機能主義というものも、大元はこの近代的な世界観に依っている。〔二〕つまり人間の生活というものを分析し、寝る、食事をする、くつろぐ、などと切り分け整理整頓し、それを論理的に（まさに機械のように）組み合わせると、よい住環境ができる、という考え方なのである。〔三〕これは特に、産業革命以降の工業社会が人口の急増によって加速した二〇世紀の社会にとって大きな成果をもたらした。〔四〕一方で、それは人間というものが本来もっていた、より複雑で曖昧な営みを切り捨ててしまった。〔五〕それでも人間は柔軟な生き物だから、近代的な空間の枠組みの中で、なんとか生きていくことができたのだが、そのズレは時代を追うごとに顕著になってくる。〔六〕

コロナの状況で、今まで場所と機能、部屋と使い方が一致してきたはずのものが、ことごとくズレ始めたことに人は気が始める。家は仕事の間所として本格的に稼働し始め、集まるための場所が集まることを許さず、全ての場所が今までの機能的な使われ方がなされなくなる。そうして初めてぼくたちは、機能主義によって用意された機能はとても硬直的で、それ以外の用途に柔軟に転用したり多様な使われ方を許容するものではなかったということに気づいたのだ。それは翻って、ではいかに多様な使われ方を許容する場所をつくることができるか、という問いにつながっていく。建築家は以前から、多様な使われ方の場所をつくる、という提案をしてきていたではないか。それがいよいよアリティを持って広く社会的に受け止められる時代になったのだ。ぼくたち建築家の提案力が真に試される。

また、コロナの状況では、都心のオフィスは意味を持たなくなる、とか、住むことと働くことが融合して皆が郊外に住み始める、といった言説も見られる。しかしAがダメならBである、という思考は、これもまた近代の切り分けられた部品としての思考の枠組みに囚われているのではないだろうか。AからBへ、というステートメントは、わかりやすいかもしれない

いが、そのような「テ」こそ、近代的思考の落とし穴なのである。

このように言うてみることはできないだろうか。AからBではなく、Aであり、同時にBである。さらにCであり、Dでもある。都心のオフィスは引き続きあり続け、しかし同時に郊外の家で働くという選択肢が加わる。さらに都心に温泉の湧く空中公園の森が生まれ、そこから空中自動車飛び立つ。AからBではなく、AからZまでの様々なものたちが、重なりあい、相互に関係を持ちながら有機的に共存する。これこそが、ポジティブな複雑さを持った多様な場を生み出す最初の一步となるだろう。

機能主義的な硬直を超えた多様な場所というものの決定的な予兆は、二〇世紀半ば以降に現われた二つの「本質的な複雑さ」に現れていたのではないかと思う。環境問題とコンピュータである。自然環境は、建築単体の問題だけでは捉えきれず、その周囲、さらには地球全体にまで広がる複雑な相互依存の系として建築と世界を理解することを求め始めた。今飲んでいるこのコーヒーが、地球のどこかを痛めつけているかもしれないし、豊かにしているかもしれない。その連鎖の意識は二〇世紀の機械的な複雑さを圧倒的に超えていく新しいトータリテイの意識であろう。コンピュータとその先のインターネットも、同じくすべてがつながって相互に関係しあうことで生まれる新しい複雑さだった。情報空間が生み出すつながりの多様さと複雑さは、ぼくたちの場所への意識を決定的に変容させただろう。そしてつながりと言った時に、それは何も単純なつながりのみを指すのではなく、つながっていないことも含めて、様々なつながり方を内包しているのである。

この「つながりあうことで生まれる多様さ」としての世界像、「何ものも単体で存在することでは意味をなさず、相互依存の系として初めて意義と豊かさが生まれる」という建築観は、冒頭で述べた河瀬さんと宮田さんの見ている風景とつながる。「多様さ」への意識が人々の生活に浸透するにつれて、数百年続いた西洋近代はようやく新しい思考と認知の枠組みを模索し始めている。それを受けて建築空間も変容していくだろう。まずは建築単体という意識から解放されるべきではないだろうか。建築、都市、道、家具、ランドスケープ、自然といったものたちを、別々に切り分けて扱う近代的な作法は、もはや通用しないはずである。これらがその差異を際立たせながらもつながりあい、切り分けていた時には見えなかったそれぞれの間の領域に新しい場所を見出していくこと。建築であり、都市であり、道であり、家具であり、ランドスケープであ

り、自然であり、それぞれでありながらそのどれも異なる様々な場所が見出されるはずだ。  
「……であり……でもあり、また……でもあること」。これからの時代を記述するひとつの方法ではないだろうか。

(藤本壮介「つながりあう世界」の複雑な相互依存の系としての「建築」より)

問一 「忌憚(きたん)のない」の言い換えとして、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

17

- 1 気楽な
- 2 率直な
- 3 横柄な
- 4 失礼のない
- 5 際限のない
- 6 とりとめのない

問二 「青臭い」とあるが、「青」を使う慣用表現として、正しくないものを次の中から必ず一つ選べ。

18

- 1 青田買い
- 2 青息吐息
- 3 青菜に塩
- 4 青雲の志
- 5 青天の霹靂
- 6 紺屋の青袴

問三 「高揚」の反対を意味する語句として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

19

- 1 幻滅
- 2 停滞
- 3 苦悩
- 4 消沈
- 5 疲労
- 6 静寂

問四 「柔軟」とあるが「柔軟」であることの利点を表す成句として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

20

- 1 柳に雪折れなし
- 2 寄らば大樹の陰
- 3 よく学びよく遊べ
- 4 金は天下の回りもの
- 5 実るほど頭を垂れる稲穂かな
- 6 聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥

問五

「ことごとく」の意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。 21

1 かなり      2 すべて      3 こまかく      4 だいたい      5 さまざまに      6 それぞれに

問六

「それは翻<sup>フ</sup>って」とあるが、「翻<sup>フ</sup>って」の言い換えとして、最も適当なものを次の中から一つ選べ。 22

1 次に      2 あえて      3 ついに      4 反対に      5 いわんや      6 振り返って

問七

アには一つの段落が抜けている。この段落に入るAからFの文の正しい順序を、次の中から一つ選べ。 23

A 同じく前号で触れたもう一人の万博テーマプロデューサー宮田裕章さんの思考が、そこに共鳴しながら重なってくる。

B これからの個人と社会の幸福を考える時、すでに使われることの多くなった「Well-being」という言葉では表しきれないその先のあり方を模索する中で生まれてきた概念なのだという。

C それは冒頭に述べた河瀬さんの世界観と共鳴する。世界のトータルテイの中に多様な存在が生き生きと蠢<sup>うごめ</sup>き、その響きあう多様性が総体としての世界を刻々と更新していく。

D それを簡潔に説明するなら、いくら個人がそれぞれの Well-being を実現したとしても、一人だけ快適にしているもはや意味がなく、むしろ人と人とのつながりの中で皆の Being がより高まって行くことこそを目指すべきだし、そのようなつながりの中でしか個々人も豊かに存在することはできない、というものだ。

E 人と人とのつながりによってうまれる Co-being のあり方こそが、総体としての豊かさにつながるのである。

F 宮田さんは「Better Co-Being」という考え方を提唱している。

- 1    A B D E F C      2    A B E D F C      3    A B F D E C

- 4 A D F E B C      5 A F B D E C      6 A F E D B C

問八

本文中の イウエオ に入る語句の正しい順序を示しているものを、次の中から一つ選べ。

- 1 かえって 例えば もはや もちろん
- 2 もはや かえって もちろん 例えば
- 3 もはや もちろん 例えば かえって
- 4 もちろん かえって もはや 例えば
- 5 例えば もちろん かえって もはや
- 6 例えば もはや もちろん かえって

問九

ケに入る言葉として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

- 1 土地の記憶      2 栄光の革命      3 表層的な新しさ
- 4 建築の本質の意味      5 興味深いつくり物      6 あらゆる状況を統合した総体

問十

次の文章が入る箇所を、本文中のコサシスセタの中から一つ選べ。

「効率的に人を動かし、大量の人とモノを空間的に処理する社会的な場所として、機能主義建築は必然だったのだ。」

- 1 コ      2 サ      3 シ      4 ス      5 セ      6 タ

問十一

テに入る言葉として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

- 1 一般化      2 同一化      3 持続化      4 単純化      5 保守化      6 複雑化

問十二 建築空間はこれからどのように変容していくと筆者は考えているか。最も適当と思われるものを次の中から一つ

選べ。 28

- 1 テーマパークのような突き抜けた空間を提供する。
- 2 人間の生活を分析してより良い住環境をつくり出す。
- 3 インターネットのように匿名の人同士のつながりを生み出す場所となる。
- 4 都心のオフィスだけでなく郊外の住宅に住む場と働く場が融合していく。
- 5 様々な気候風土や歴史文化の蓄積を受け止めて人間のための場所を構築していく。
- 6 建物それ自体という意識から解放され、それぞれの間で新しい場所を見出ししていく。

問十三 本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。 29 29 の欄に、二カ所マークすること

- 1 モダニズム建築は、ポストモダンの表層的な新しさを超える可能性を持っていた。
- 2 モダニズム建築は、世界を機能主義的に理解することで建築の歴史を書き換えた。
- 3 モダニズム建築は、世界をリニアな歴史の中で理解することで豊かな一步を踏み出した。
- 4 コロナの状況において、相互依存する風景の多様性が明らかとなった。
- 5 コロナの状況において、機能主義的な建築の硬直性が明らかとなった。
- 6 コロナの状況において、建築に備わる「本質的な複雑さ」が明らかとなった。

大問一		解答
問一	1	②
問二	2	①
問三	3	⑤
問四	4	③
問五	5	④
問六	6	⑥
問七	7	⑥
問八	8	⑤
	9	②
	10	③
	11	⑥
	12	⑥
問九	13	③
問十	14	②
問十一	15	⑥
問十二	16	①④

大問二		解答
問一	17	②
問二	18	⑥
問三	19	④
問四	20	①
問五	21	②
問六	22	④
問七	23	⑤
問八	24	⑥
問九	25	②
問十	26	④
問十一	27	④
問十二	28	⑥
問十三	29	②⑤